

令和4年度 第3回 大阪府立金剛高等学校 学校運営協議会

令和5年2月4日(土)
於：金剛高等学校会議室

議事録

1. あいさつ（榊井校長）

2. 出席者紹介（敬称略）

- ・村上 佳司（桃山学院教育大学 教授）
- ・大山口 公治（大阪府立金剛高等学校 金剛会代表）
- ・金 和子（とんだばやし国際交流会 理事）
- ・井本 和代（大阪府立金剛高等学校 PTA 代表）（ご欠席）
- ・下阪 善彦（藤陽中学校区地域教育協議会 元会長）
- ・藤岡 章寿（富田林市立葛城中学校 校長）
- ・長谷川 陽一（桃山学院教育大学 教授）

3. 41期生進路状況（報告）

一般入試を受験している生徒もまだいるので、確定の数ではなく、合格者人数は述べ人数になっている。進路決定の動きは、早めに決定したいという動きが昨年度よりも強い傾向にある。

私立大学（昨年度99名⇒157名）短大（昨年度20名⇒24名）

国家公務員（1名合格、まだ公務員試験受験中の生徒あり）

就職希望者（昨年度3名⇒9名※共生推進教室3名も含んでいる。仮内定も含んでいる数字）

看護系（昨年度13名⇒9名）医療系（昨年度10名⇒14名）

共通テスト出願（昨年度40名⇒16名※実受験11名）

4. 共生推進教室（報告）

共生推進教室の3名全員内定を頂いている（仮内定含む）。

5. リーディングGIGAハイスクール（報告）

府立学校におけるICT教育の取り組みを先導するために、府内30校限定で、本校が選ばれる。認定期間は令和5年4月1日～令和8年3月31日で、最新のプロジェクター、電子黒板が導入される。

6. 協議

① 学校経営計画（令和4年度）

学校教育自己診断について

11月に行った学校教育自己診断（生徒・保護者・教員）の結果、多くの項目において、結果が下がっている。その結果について、教員でグループワークを行い、その話し合いを受けて、「教員」「生徒」「環境」3つの要因に分けて結果を分析した。

【教員】多忙感や管理職との意思疎通の問題。

【生徒】観点別評価の導入により、従来の学力の捉え方・授業のあり方も変わっている。

【環境】産育休・介護休・病休等で年度途中で教科担当を変更したクラスがある。コロナ渦が続いている。

結果が下がっている項目が多い。このことについて、教員でグループワークを行い、その話し合いを受けて、「教員」「生徒」「環境」3つの要因に分けて分析した。

【教員】多忙感やコミュニケーションの課題。

【生徒】観点別評価の導入により、従来の学力の捉え方・授業のあり方も変わっている。

【環境】産育休・介護休・病休等で年度途中で教科担当を変更したクラスがある。コロナ渦が続いている。

○数字と向き合って、対策を項目別に打っているように思える。新型コロナウイルスの問題等の環境の問題も大きいのではないかと考えている。私を感じたのは、先生の団結の数値が悪くなっている。異動があるとはいえ、昔はもっと意見交換できたのではないか。

○毎朝、元気にあいさつしてくれる金剛高校の子どもたちを見ていると、数値が納得できない。私なりに色々な観点で分析をした結果、今年度からアンケートの項目で「わからない」が増えている。それによって、データの比率に違い

が出たのではないか。実は、「わからない」の項目を無視すれば、肯定的な意見の割合は依然として多く、必ずしも否定的に捉える必要はないのではないか。

●昨年度と異なった計算方法で今年度の肯定率が算出されて、低い数値となっていることが判明 → 後日、再計算し、修正値を発表した。

○低くなっている数字を見て驚いた。自由記述には具体的な意見がたくさんあるとはいえ、生徒の意見をそのまま採用することは学校教育活動のバランスを取るためには難しい。

○1年生の学習に対する意識が低い。そうすると、他の項目でも良い結果が期待できなくなるのは当然かもしれない。ロールモデルが身近に必要なのではないか。

●観点別評価で育ってきた1年生の学びが深まるよう授業改善の取組みを更に進める。

○昨年度は、41期生（現3年生）の回答率が17%であった。今年度は全ての学年において、80%を超えているので、データとして信頼性は高いのではないか。生徒と保護者の回答についても、結果の内容が乖離することなく、同じようになっていることも信頼性のある部分だと考えている。前回の授業見学では、先生の取り組みの姿勢も高く、授業アンケートも依然として高い数値だと聞いたので、少し安心している。先生の多忙感を取り除くことも、子どもたちとの繋がりをつくるために大切なのではないか。

●働き方改革の具体的取組みを増やす。

○今回のこの（再計算修正前の）数字を見て、危機的状況と捉えても仕方ない。ただ、数字を見える化して、分析してきたことはポジティブに捉えていいと思う。生徒も教員もワクワクして通えるような学校づくりが大切。今回、その改善のために、グループワークを行ったと聞いたが、色々な項目を学年、部署を問わないで課題に向き合ってほしい。学年によって結果も異なっているので、学年により背景・要因も総合的に分析してほしい。校長は学年別で分析した時にどのように考えているか。

●学年で比べるのではなく、例えば、41期生がどのように3年間で変化をしていくのかという視点で見ている。3年生は3年間、金剛で過ごして肯定率が年々上がっている項目も多い。「先生が親身に相談にのってくれる」割合は他学年と同様少ないので、教員の働き方・環境を整えなければならないと感じている。2年生は修学旅行のプラン変更等の行事

に関するものが影響しているのではないか。1年生は「授業がわかりやすく、学習する意欲がわく」という項目が低い。高校に求められている授業のあり方も変わってきている。新しい教育を受けた生徒たちに合わせて私たち教員も変わらなければならないと感じている。

学校経営計画（令和5年度）について

令和5年度の学校経営計画では、「観点別評価の研究」「授業のユニバーサルデザイン化による共生推進教室を含む授業改善への取り組み」「共生推進教室の1人1台端末利用」「教員のストレスチェック受検率向上」「すこやかネットに積極的に参加し地域と幼小中校の連携強化」「生徒が教員に気軽に相談できる環境づくり」等、今年度の学校運営協議会の意見を盛り込み作成した。

○学校経営計画の項目それぞれの目標を遂行達成すれば、金剛高校のめざす学校像に本当につながっていくということが一番大切だと思う。目標設定をしっかり、後はそれを実行。

○中学校2年生が金剛高校を訪問して、体験授業させて頂き本当に良かった。幼少中高連携も計画に盛り込んでくれたら嬉しい。「英語、社会の人生ゲーム等、授業がすごかった」「プロジェクターがすごかった」「クラブの数にびっくりした」など、色々子どもたちが感想を書いている。高校生もそれを知れば自信になるのではないか。

○アンケートの結果を見て、先生が多忙で余裕がないということ、数字で見てさらに認識した。そこが改善されないと、辛いのではないか。対策を立てれば立てるほどいいのではなく、そのタスクをこなすにも負担がかかることを考慮してほしい。

○先生の負担があると思う。多くの情報が可視化され、教員の余裕もなければ、数も足りない。教育センターが行っている研修プログラム等を活用しながら先生の視野を広げるような取り組みが効果的ではないか。

○特別支援教育の観点から言えば、共生推進教室が新規就職先を2か所（2名）も開拓されたことは素晴らしい。また、授業の目標の設定を授業の初めに示すことは、とても意義深い。最後に、アンケートにおいて、教員の多忙感により、子どもとのやりとりができないという結果が出ているが、短い時間の些細な言葉がけだけでも結果が変わっている。

○通学路で挨拶してくれるような金剛の生徒たち。一言一言の会話を大切にしたい。愛着を求めている生徒に対して安全基地が学校の中にあることはとても重要。教職員組織を含めたより良い環境づくりが、より良い学校教育にも繋がると考えている。